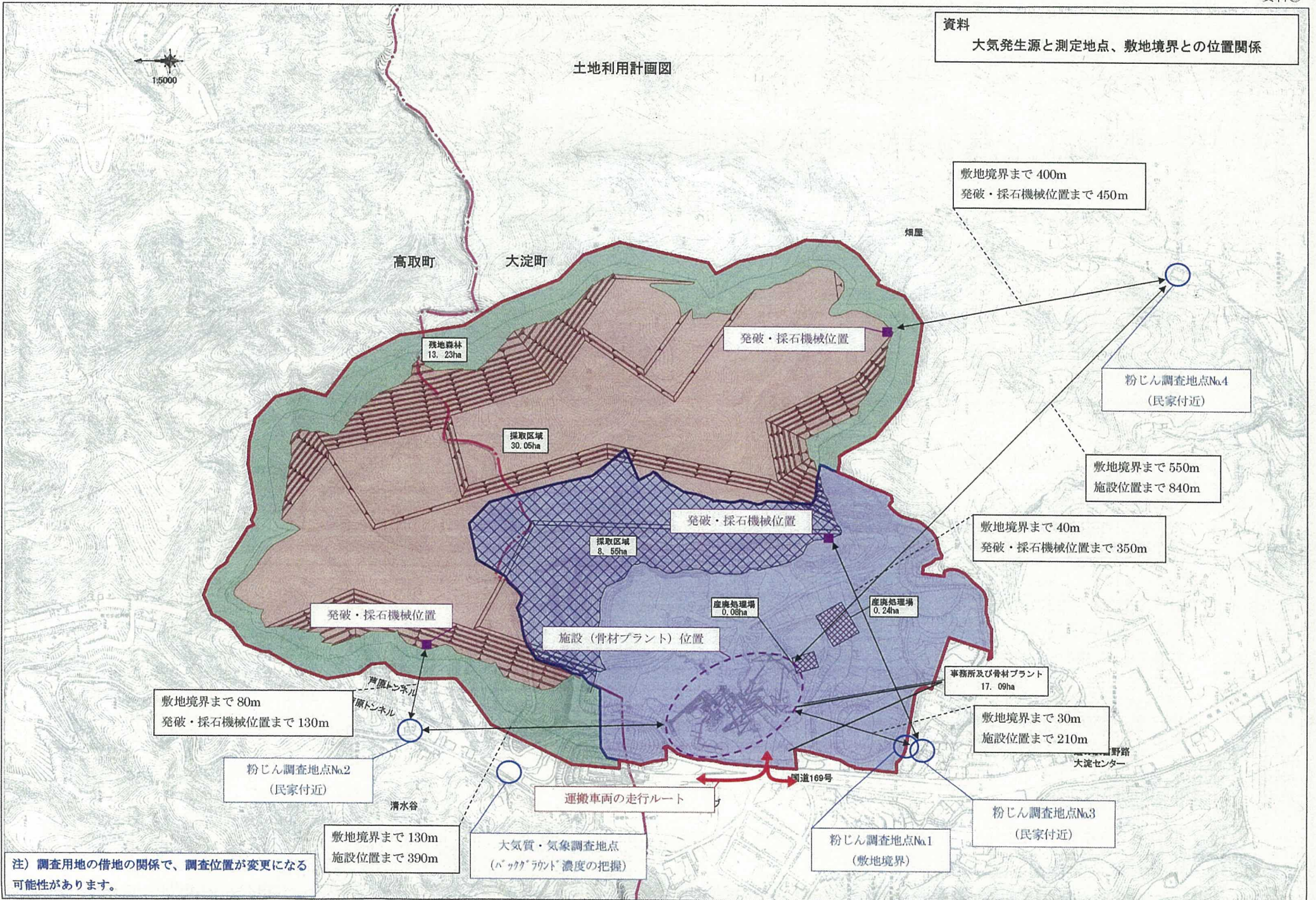


別添資料

1. 騒音・振動発生源と測定地点、敷地境界との位置関係
2. 大気発生源と測定地点、敷地境界との位置関係
3. 騒音発生源と民家、測定地点、敷地境界との位置関係
4. 雨の強さと降り方
5. 調整池・放流施設 説明図
6. 指定文化財の分布状況
7. 文化遺産：分布・確認調査時留意箇所
8. 断面図(昔原トンネル・新芦原トンネル追記)



資料
大気発生源と測定地点、敷地境界との位置関係

土地利用計画図

敷地境界まで 400m
発破・採石機械位置まで 450m

粉じん調査地点No.4
(民家付近)

敷地境界まで 550m
施設位置まで 840m

敷地境界まで 40m
発破・採石機械位置まで 350m

敷地境界まで 80m
発破・採石機械位置まで 130m

敷地境界まで 30m
施設位置まで 210m

敷地境界まで 130m
施設位置まで 390m

注) 調査用地の借地の関係で、調査位置が変更になる
可能性があります。

雨の強さと降り方(気象庁、平成12年8月作成、平成14年1月一部改正)

1時間雨量(mm)	予報用語	人の受けるイメージ	人への影響	屋内 (木造住宅を想定)	屋外の様子	車に乗っていて	災害発生状況
10以上 ～20未 満	やや 強い 雨	ザーザーと降 る	地面からの跳ね 返りで足元がぬ れる	雨の音で話し声 が良く聞き取れ ない	地面一面に水たまり ができる		この程度の雨でも長く続く時は注 意が必要
20以上 ～30未 満	強い 雨	どしゃ降り	傘をさしてい てもぬれる	寝ている人の半数 くらいが雨に気が つく		ワイパーを速くしても 見づらい	側溝や下水、小さな川があふれ、小 規模の崖崩れが始まる
30以上 ～50未 満	激し い雨	バケツをひっ くり返したよ うに降る				道路が川のような になる	高速走行時、車輪と路面 の間に水膜が生じプレ ーキが効かなくなる(ハ イドロプレーニング現 象)
50以上 ～80未 満	非常 に激 しい 雨	滝のように降 る(ゴーゴーと 降り続く)	傘は全く役に立 たなくなる		水しぶきであたり一 面が白っぽくなり、 視界が悪くなる	車の運転は危険	都市部では地下室や地下街に雨水 が流れ込む場合がある マンホールから水が噴出する 土石流が起こりやすい 多くの災害が発生する
80以上 ～	猛烈 な雨	息苦しくなる ような圧迫感 がある。恐怖を 感ずる					雨による大規模な災害の発生する おそれが強く、厳重な警戒が必要

(注1)「強い雨」や「激しい雨」以上の雨が降ると予想される時は、大雨注意報や大雨警報を発表して注意や警戒を呼びかけます。なお、注意報や警報の基準は地域によって異なります。

(注2)猛烈な雨を観測した場合、「記録的短時間大雨情報」が発表されることがあります。なお、情報の基準は地域によって異なります。

(注3)表はこの強さの雨が1時間降り続いたと仮定した場合の目安を示しています。この表を使用される際は、以下の点にご注意下さい。

1. 調整池Aについて

調整池Aは「宅地及びゴルフ場等開発に伴う調整池技術基準」に基づき、現在の採取区域に対して必要な調節容量および、採取区域を拡張した際に必要となる調節容量を確保しています。

また、同基準に基づき、洪水を処理するための放流施設を設置する計画です。

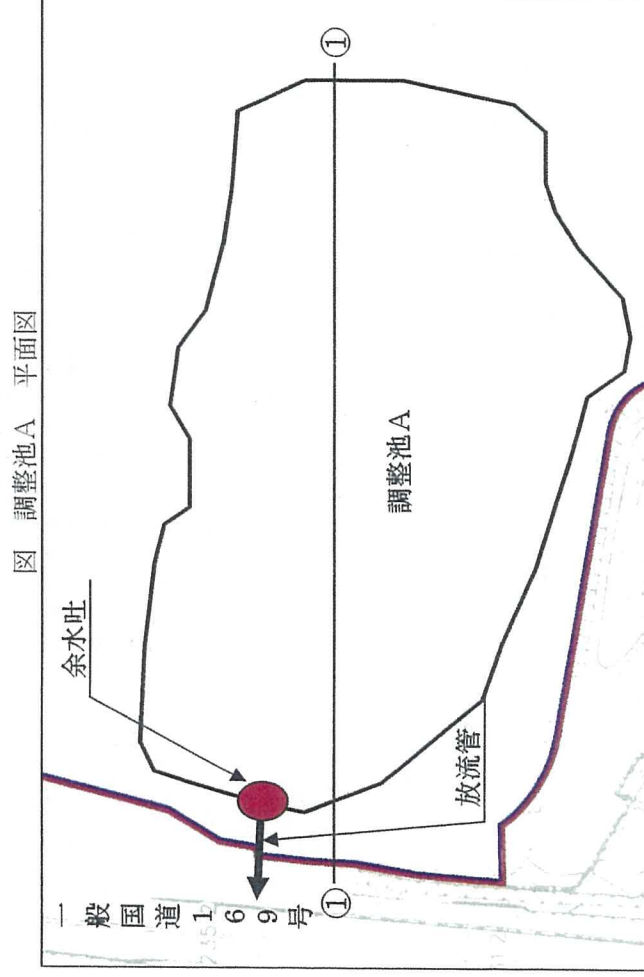
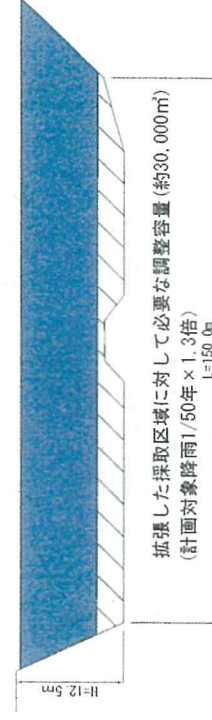


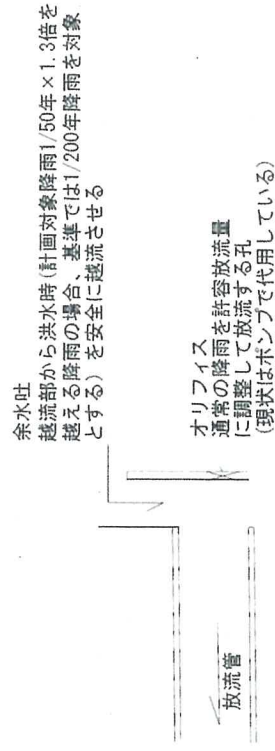
図 調整池A ①-①断面図
余裕分の調節容量(約90,000m³)



現状の調整池Aでは計画対象降雨を1/200年とした場合に必要なた調節容量(約45,000 m³)以上の容量を有しています。(1/200年の洪水を貯留できる容量があるので、現状では余水吐を設置する必要がない。)

2. 放流施設

図 放流施設 構造図



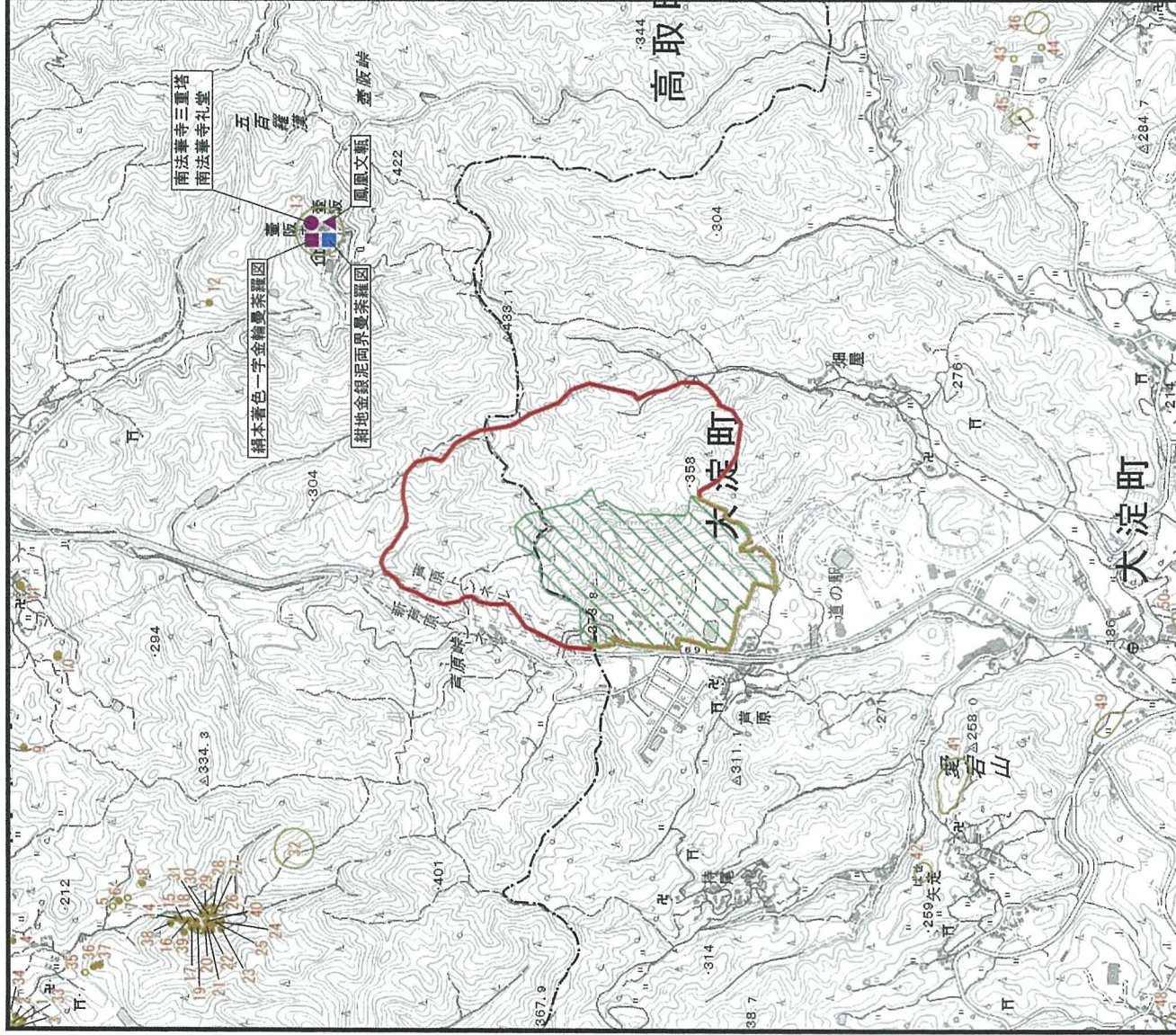
3. 調整池B・Cについて

調整池B及び調整池Cは将来の採取区域の拡張の時期に合わせて、各々の基準に基づいた施設を設置する計画です。

表 指定文化財の分布状況

指定	区 分		名称	員数	所在地	
国	有形文化財	重要文化財	建造物	南法華寺三重塔	1	高取町大字壺阪
			建造物	南法華寺礼堂	1	高取町大字壺阪
			絵画	絹本着色一字金輪曼荼羅図	1	高取町大字壺阪
			考古資料	鳳凰文甌	1	高取町大字壺阪
県	有形文化財	絵画	紺地金銀泥両界曼荼羅図	2	高取町大字壺阪	

出典：「国指定文化財等データベース」（文化庁ホームページ）
「大淀町内の指定文化財一覧（2014年現在）」（大淀町ホームページ）
「高取町指定文化財 一覧」（高取町資料）



(この地図は、国土地理院発行の「電子地形図25000」を使用したものである。)

凡例

	: 対象事業実施区域		: 国指定文化財(建造物)		: 県指定文化財(建造物)
	: 対象事業既認可区域		: 国指定文化財(絵画)		: 重要文化財(絵画)
			: 国指定文化財(考古資料)		: 重要文化財(埋蔵文化財包蔵地等)

注) 1. 古墳については、その可能性はあるが断定できないものは原則として白抜きで示し、確実な古墳は塗りつぶしで示して区別した。
 2. 寺院跡については、茶畑や桑里の地割と遺構の一致などから寺院が想定できるものは復元範囲を示したが、寺院想定困難なものは円形でおおよその位置を示した。
 3. 遺物散布地については、地表調査の際に特に遺物の散布が顕著であった範囲を示したものであって、必ずしも遺跡自体の範囲を示すものではない。
 4. 遺物出土地で正確な地点が不明なものについては、円形でおおよその位置を示した。

出典：「大淀町の文化財」(大淀町ホームページ)
 「高取町指定文化財一覧」(高取町資料)
 「奈良県遺跡地図Web」(平成26年5月29日現在、奈良県ホームページ)

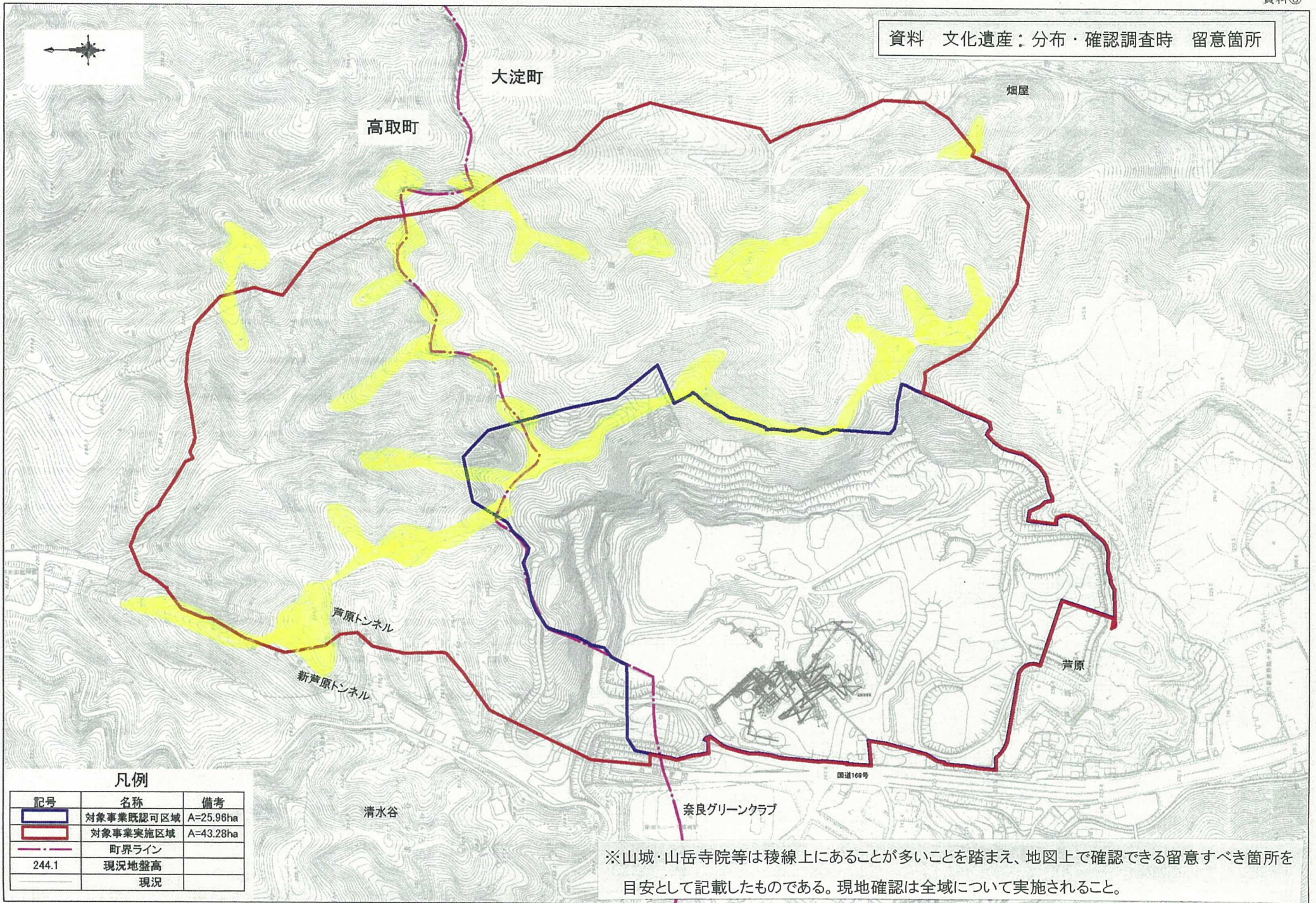
1:20,000

0 500 1,000m

N

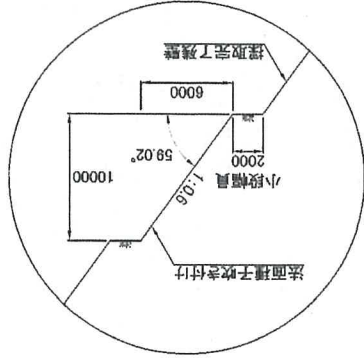
図 指定文化財及び埋蔵文化財包蔵地の分布状況

資料 文化遺産：分布・確認調査時 留意箇所

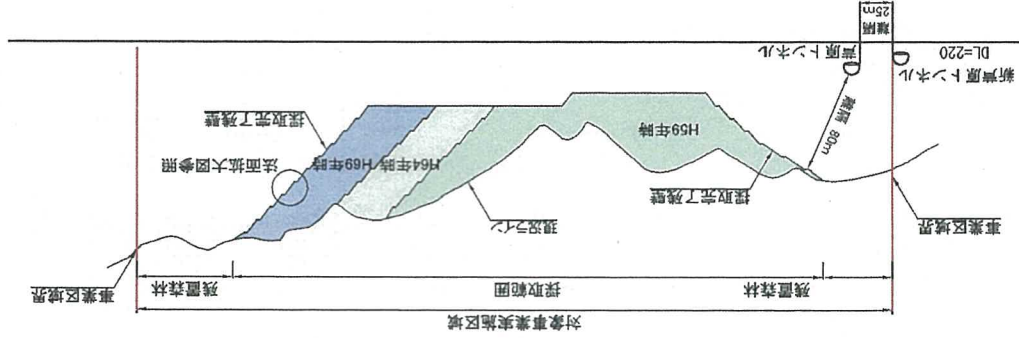


資料
断面図(トソナル記入)

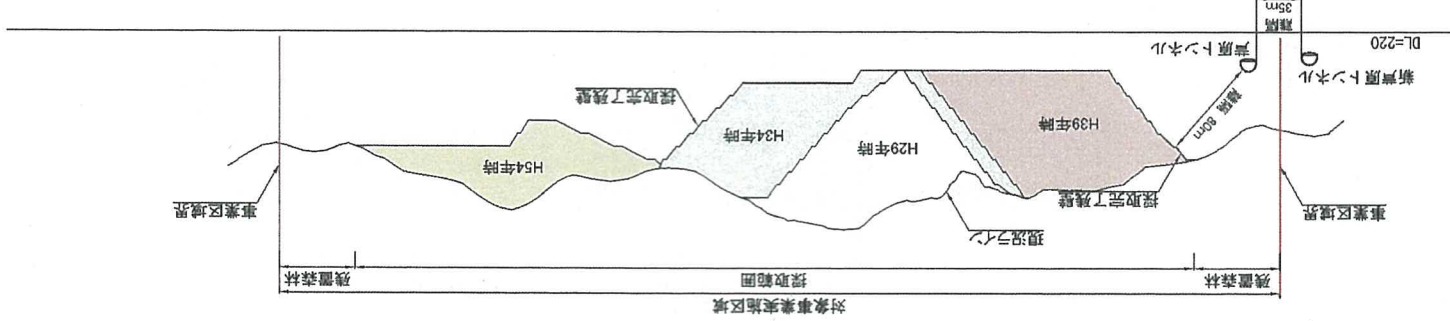
法面拡大図 1:400



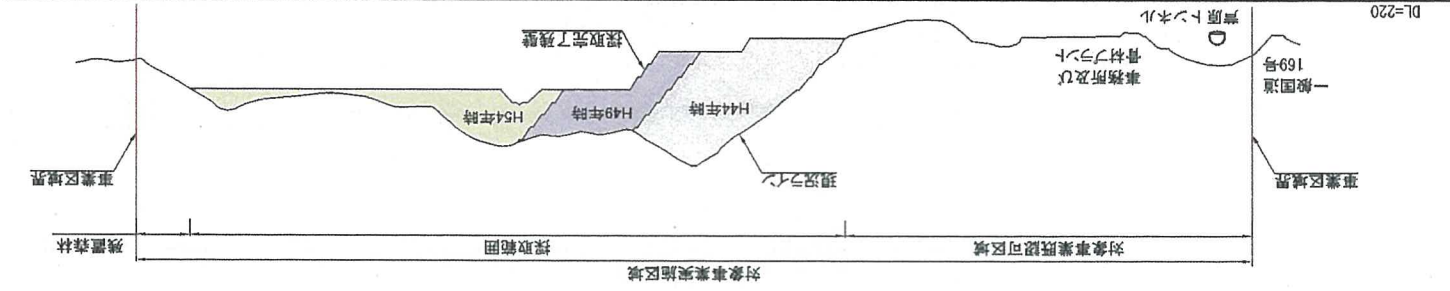
掘削完了後の法面には種子吹き付けを行い、小段には低木植栽を行う



①-①断面図 1:400



②-②断面図 1:400



③-③断面図 1:400

記号	名称
■	H29年時採掘完了区域
■	H34年時採掘完了区域
■	H39年時採掘完了区域
■	H44年時採掘完了区域
■	H49年時採掘完了区域
■	H54年時採掘完了区域
■	H59年時採掘完了区域
■	H64年時採掘完了区域
■	H69年時採掘完了区域

凡例